

第85期
中間報告書

平成26年4月1日~平成26年9月30日

Micro&Fine Technology

【 経営理念 】

私たちは、お客様にとって価値のある商品とサービスの提供を通じて社会の発展に貢献します。

私たちは、情報を重視し、世界の変化にすばやく適応するため、技術・知識・行動の革新に挑戦し続けます。

私たちは、利益ある発展と、創造性豊かでいきいきとした企業風土の確立を目指します。

当社の経営方針について

当社はステンレス鋼線並びに金属繊維（ナスロン）を主力製品とし、長年に亘り培ってきた技術力と新しい技術分野への挑戦により、お客様にとって価値ある商品とサービスの提供を通じて社会の発展に貢献することを経営の基本理念といたしております。

また、株主の皆様並びにお取引先など、内外の関係先からの信頼と期待に応えるため、常に世の中の変化に迅速に対応できる柔軟な経営体制の構築を通じて、安定した収益基盤の維持・拡大を図るべく事業活動を展開してまいります。

株主の皆様へ

日本精線は、ステンレス鋼線のトップメーカーとして、次世代素材、技術開発をリードしつづけています。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、当社第85期中間期(第2四半期累計期間、平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)の事業の概況につきましてご報告申し上げます。

平成26年12月



代表取締役社長

近藤 龍夫

当中間期(第2四半期連結累計期間)におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融緩和政策を背景に緩やかな回復基調にあるものの、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の長期化や天候不順等の影響により個人消費回復の動きは鈍く、また中国をはじめとした新興国経済の減速懸念など、先行き不透明な状況が続いております。

当社及び連結子会社(以下「当社グループ」という。)が属するステンレス鋼線業界におきましては、消費税率引上げ前の駆け込みの反動により一部調整が見られたものの、建材関連の需要が引き続き好調であったことから、出荷数量は、前年同期比増加となりました。

このような状況下、当社グループでは、(1)高機能・独自製品(ばね用材、耐熱ボルト用材、金属繊維など)の売上高比率70%以上、(2)連結経常利益50億円以上、(3)海外売上高比率30%以上などを経営目標とする『第12次中期計画(ミッション753)』(最終年度平成27年3月期)の達成に向け、収益の一段の向上に鋭意取り組んでまいりました。この結果、当中間期の売上高は164億3百万円と前年同期比7.9%増収となりました。

損益につきましては、売上高の増加に伴う粗利

の増加や工場操業度の良化などにより営業利益14億14百万円(前年同期比21.4%増)、経常利益14億21百万円(同18.9%増)、四半期純利益9億21百万円(同24.3%増)となりました。

なお、中間配当につきましては、既に公表しておりますとおり1株につき5円とさせていただきます。

次に部門別の概要についてご報告申し上げます。

ステンレス鋼線部門

消費税率引上げ後の反動が自動車向けなどで一部見られたものの比較的軽微に止まりました。一方、建材関連需要は好調に推移し、さらには円安を背景に海外向けが伸長したため、販売数量は増加となりました。

また、海外現地法人であるTHAI SEISEN CO., LTD. につきましては、タイ国内及び海外向けが好調に推移した結果、販売数量は前年同期比で大幅増加となり、売上高は増加しました。

これらの結果、ステンレス鋼線部門の売上高は142億20百万円(前年同期比8.7%増)となりました。

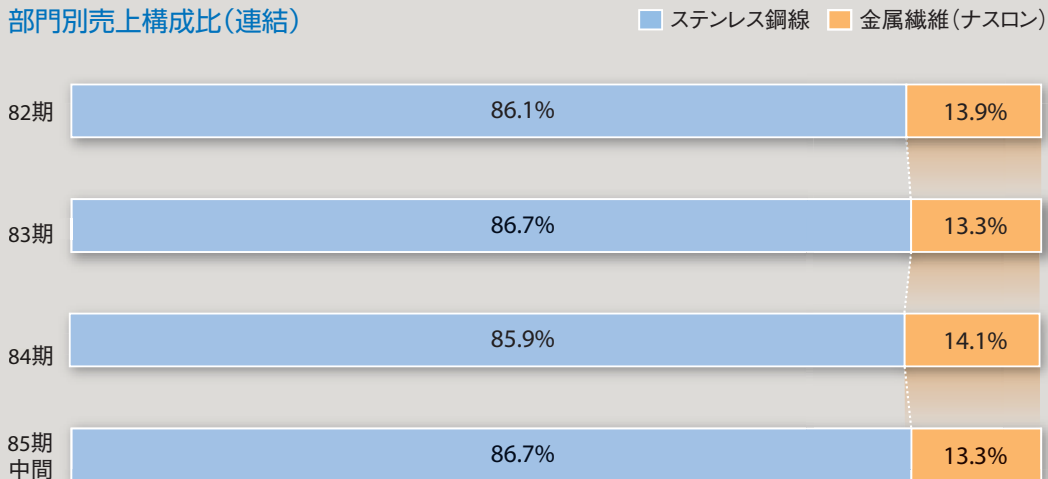
金属繊維(ナスロン)部門

主力のナスロンフィルターは国内外市場での大型増設案件がなく、期後半にはポリエステルフィルム分野、高機能フィルム分野などが低調に推移したため、減収となりました。一方、超精密ガスフィルター(ナスクリーン)は期後半に韓国や台湾での設備投資が再開し、装置メーカーやガスメーカーでの需要が回復したことにより増収となりました。

また、海外現地法人である耐素龍精密濾機(常熟)有限公司につきましては、中国国内向けの需要が好調に推移したことにより、売上高は増加しました。

これらの結果、金属繊維部門の売上高は21億82百万円(前年同期比3.0%増)となりました。

部門別売上構成比(連結)



今後の見通しといたしましては、製造業の海外移転、新興国経済の減速などによる海外景気の下振れ懸念、さらには電力料金を始めとするエネルギーコストの上昇等懸念すべき課題は山積しております。

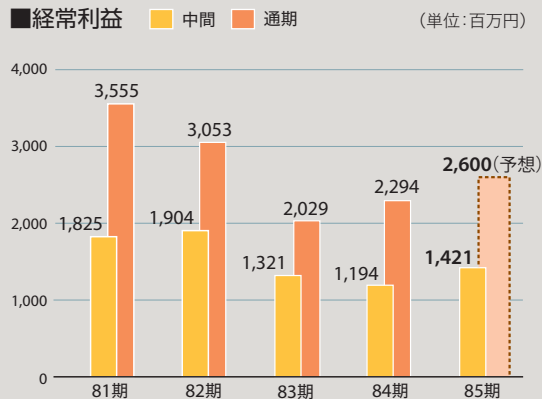
また、当社グループの主力製品であるステンレス鋼線は、中国や韓国のステンレス鋼線メーカーとの競争激化による収益低下などの懸念があり、加えてニッケル価格に起因する原材料価格の変動リスクなど厳しい環境下に置かれています。また、金属繊維(ナスロン)も化合繊維向けなどの一般汎用製品については競争が激しくなってきました。

こうした中で、当社グループはかかる経営環境

に対応するべく、より筋肉質な企業基盤を目指し、既述の『第12次中期計画(ミッション753)』の課題に鋭意取り組んでおります。

具体的には、ステンレス鋼線部門において、販売面では国内外市場に対し、ばね用材や極細線をはじめとする高機能製品、自動車向け耐熱ボルト用材や高合金線などの独自製品の拡販に加え、新用途製品の立ち上げを推進しております。一方、生産面では需要家のグローバル展開に対応して海外2工場の拡張や、枚方工場の物流改善の推進等により、引き続き国内外の最適生産体制の構築を進めてまいります。開発面では当社グループの保有する技術力・ノウハウに大同特殊鋼グループの技術力を結集することによる新製品

業績の推移(連結)



第83期の経常利益については、固定資産除却損の表示方法の変更を実施したため、遡及処理後の数値を記載しております。

開発の強化や新規事業の確立などに引き続き取り組んでまいります。

金属繊維部門では、中国・韓国の現地法人の活用による海外市場への拡販、また、国内でもより高機能化・高精度化する需要に応えるべく技術開発を継続して実施しております。

さらに新規分野では、環境負荷物質を含まず高強度・高導電性を有するばね用銅系合金線（商品名：エレメタル）などの新製品・新用途製品の拡充、さらには高純度の水素を取り出すことが可能な水素分離膜モジュールの商品化などにも鋭意取り組んでまいります。

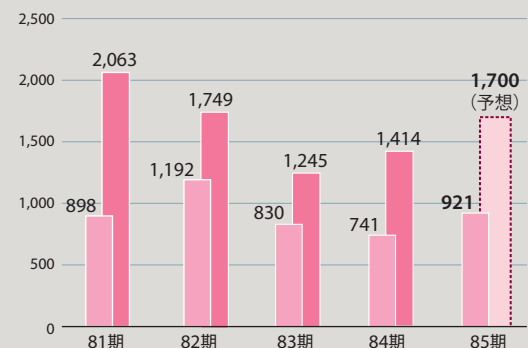
以上の諸施策を確実に実行し、収益の一段の向上を図るとともに、事業のグローバル化推進や

高度化・多様化する顧客ニーズへの対応などにより、『さらなる企業価値の向上』にグループ一丸となって取り組んでまいります。

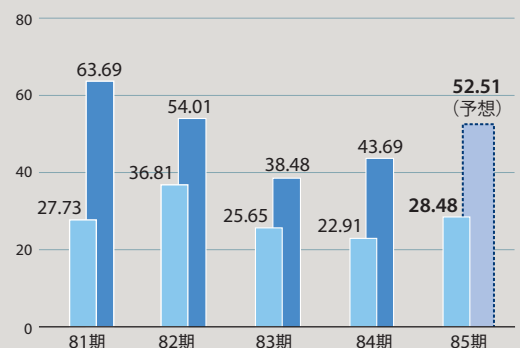
なお、当第2四半期連結累計期間の業績は概ね順調に推移しており、平成27年3月期の連結通期業績につきましては、平成26年4月28日に公表いたしました業績予想に変更はございません。

株主の皆様におかれましては、何卒、一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

■当期純利益 (単位:百万円)



■1株当たり当期純利益 (単位:円)



連結決算

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	期別	当第2四半期末 (平成26年9月30日現在)	前第2四半期末 (平成25年9月30日現在)	前期末 (平成26年3月31日現在)
資産の部				
流動資産		22,911	20,370	21,824
現金及び預金		9,403	8,024	9,231
受取手形及び売掛金		7,213	6,419	6,737
商品及び製品		1,976	1,832	1,780
仕掛品		2,606	2,278	2,442
原材料及び貯蔵品		1,257	1,386	1,203
繰延税金資産		269	272	277
その他		184	155	150
固定資産		12,182	12,452	12,238
有形固定資産		9,611	9,898	9,722
建物及び構築物(純額)		2,744	2,865	2,793
機械装置及び運搬具(純額)		4,808	5,135	5,081
土地		1,594	1,587	1,589
リース資産(純額)		9	22	12
建設仮勘定		230	51	28
その他(純額)		224	234	216
無形固定資産		251	309	292
投資その他の資産		2,318	2,244	2,224
資産合計		35,093	32,822	34,063

*財務諸表は以下に基づき作成しております。

①当第2四半期累計期間(末)及び前第2四半期累計期間(末)は四半期連結財務諸表規則に基づき、それぞれ作成しております。

②記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

科目	期別	当第2四半期末 (平成26年9月30日現在)	前第2四半期末 (平成25年9月30日現在)	前期末 (平成26年3月31日現在)
負債の部				
流動負債		6,664	6,454	6,425
支払手形及び買掛金		4,197	3,310	3,973
短期借入金		678	1,188	667
未払法人税等		541	530	626
賞与引当金		550	519	541
役員賞与引当金		—	—	28
その他		696	904	588
固定負債		4,130	3,160	3,971
長期借入金		531	—	704
退職給付引当金		—	2,998	—
役員退職慰労引当金		132	127	143
退職給付に係る負債		3,440	—	3,094
資産除去債務		21	21	21
その他		4	12	8
負債合計		10,795	9,614	10,397
純資産の部				
株主資本		24,024	22,939	23,447
資本金		5,000	5,000	5,000
資本剰余金		5,446	5,446	5,446
利益剰余金		13,615	12,526	13,037
自己株式		△ 36	△ 33	△ 36
その他の包括利益累計額		45	59	△ 8
その他有価証券評価差額金		143	198	160
繰延ヘッジ損益		—	0	△ 0
為替換算調整勘定		△ 35	△ 138	△ 93
退職給付に係る調整累計額		△ 63	—	△ 74
少数株主持分		228	209	226
純資産合計		24,298	23,208	23,665
負債純資産合計		35,093	32,822	34,063

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当第2四半期(累計)	前第2四半期(累計)	前期
		(平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで)	(平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)	(平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで)
売上高		16,403	15,206	30,917
売上原価		13,637	12,691	25,871
売上総利益		2,766	2,514	5,046
販売費及び一般管理費		1,351	1,348	2,793
営業利益		1,414	1,165	2,252
営業外収益		34	57	119
営業外費用		28	28	78
経常利益		1,421	1,194	2,294
特別利益		0	-	0
特別損失		-	4	4
税金等調整前四半期純利益 又は税金等調整前当期純利益		1,421	1,190	2,290
法人税、住民税及び事業税		504	493	919
法人税等調整額		△11	△42	△46
少数株主損益調整前四半期純利益 又は少数株主損益調整前当期純利益		927	739	1,417
少数株主利益又は少数株主損失		5	△2	3
四半期純利益又は当期純利益		921	741	1,414

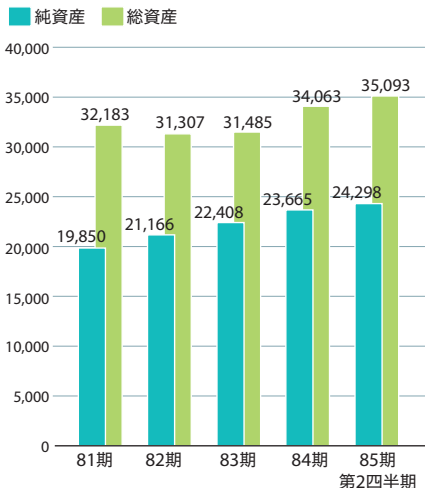
四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当第2四半期(累計)	前第2四半期(累計)	前期
		(平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで)	(平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)	(平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		889	1,182	3,273
投資活動によるキャッシュ・フロー		△435	△413	△1,325
財務活動によるキャッシュ・フロー		△340	△254	△269
現金及び現金同等物に係る換算差額		39	12	38
現金及び現金同等物の増減額		153	526	1,716
現金及び現金同等物の期首残高		9,179	7,462	7,462
現金及び現金同等物の四半期末又は期末残高		9,333	7,989	9,179

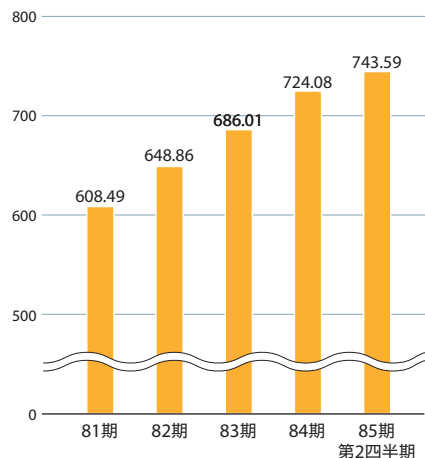
■総資産・純資産(連結)

(単位:百万円)



■1株当たり純資産(連結)

(単位:円)



会社の概況 (平成26年9月30日現在)

会社概要

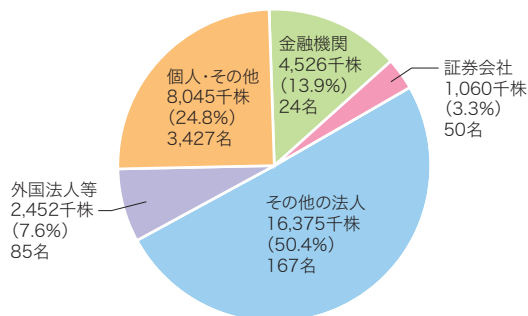
商号 日本精線株式会社
(英文名 NIPPON SEISEN CO., LTD.)
設立 昭和26年6月30日
資本金 50億円
従業員数 545名
ホームページ <http://www.n-seisen.co.jp/>
アドレス

当社グループの主な営業品目

ステンレス鋼線、ステンレス鋼直棒・異形線、高合金線、チタン線、金属繊維(ナスロン)及びその加工品、金属繊維焼結フィルター、半導体用超精密ガスフィルター、ダイヤモンドダイス、溶接棒、その他金属線

株式の状況

- 発行可能株式総数 82,800,000株
- 発行済株式の総数 32,461,468株
- 当第2四半期末株主数 3,753名
- 所有者別株式分布状況



当社グループの主要な事業所

■当社

本社 大阪市中央区高麗橋四丁目1番1号(興銀ビル)
支店・営業所 大阪(大阪市中央区)・東京(東京都中央区)
名古屋(名古屋市中区)・九州(福岡市中央区)
工場 枚方(大阪府枚方市)・東大阪(大阪府東大阪市)
名古屋(名古屋港区)

■主な子会社

会社名	出資比率	所在地
THAI SEISEN CO., LTD. (*)	95%	タイ国サムットプラカーン
耐素龍精密濾機(常熟)有限公司(*)	70%	中国江蘇省常熟
大同不銹鋼(大連)有限公司	74%	中国遼寧省大連

(*)は連結対象子会社

■大株主

株主名	持株数	持株比率
大同特殊鋼株式会社	13,103 ^{千株}	40.48 [%]
日本冶金工業株式会社	1,688	5.21
株式会社みずほ銀行	1,086	3.36
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	537	1.66
特殊発條興業株式会社	532	1.65
前尾和男	511	1.58
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	416	1.29
株式会社池田泉州銀行	401	1.24
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	350	1.08
株式会社三菱東京UFJ銀行	338	1.04

(注)持株比率は自己株式(91,332株)を控除して計算しております。

役員

取締役及び監査役

(*印の取締役は執行役員を兼務しております)

代表取締役社長	近藤龍夫
*取締役	衣川公尊
*取締役	岸木雅彦
*取締役	多賀正宏
*取締役	秋田康明
取締役	立花一人
常勤監査役	住友清志
常勤監査役	浮田昌秀
監査役	古池俊典
監査役	野中章男

執行役員

常務執行役員	衣川公尊
常務執行役員	岸木雅彦
常務執行役員	宮城修司
常務執行役員	多賀正宏
常務執行役員	川端泰司
執行役員	中川準市
執行役員	安部明夫
執行役員	西田成夫
執行役員	大間英之
執行役員	富永誠司
執行役員	秋田康明

株主メモ

決算期日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 その他必要のあるときは、取締役会で決議し、 あらかじめ公告する一定の日
剰余金配当の基準日	期末 毎年3月31日 中間 毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告掲載方法	日本経済新聞に掲載
証券コード	5659
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
	●電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)
	●インターネット http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/

NIPPON SEISEN CO., LTD.

